



新宿山吹だより

都立新宿山吹高等学校通信
令和6年度第8号
【令和6年11月1日】

新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

悪魔の代弁者

校長 永浜 裕之

生徒の皆さんの中には、いずれ社会のリーダーとなる人がいると思います。リーダーとなり、トップとして決断しなければならない時、多様な意見を聞くなどして、自分の考えに見落としがないか、熟慮したうえで最適な決断をすべきだと思います。また、賢明な判断を下すために、日々、教養を高め続ける努力も必要だと考えます。

今回は、「悪魔の代弁者」、言い換えれば、「あえて『難癖をつける人』の重要性」について話をします。「悪魔の代弁者」とは、多数派に対して、あえて批判や反論をする人です。ここで言う「あえて」とは、性格が天邪鬼で多数派の意見に反対するということではなく、「そのような役割を意識的に担う人」ということです。

関連して、哲学者 ジョン・スチュアート・ミル(略してJSミル)の話をします。JSミルは、イギリスの政治哲学者、経済思想家で、著書「自由論」の中で、健全な社会における「反論の自由」の大切さについて、繰り返し指摘しています。

「自分の意見に反論・反証する自由を完全に認めてあげることこそ、自分の意見が、自分の行動の指針として正しいと言えるための絶対的な条件なのである。全知全能でない人間は、これ以外のことから、自分が正しいと言える合理的な補償を得ることができない。」と述べています。

現実世界の例を挙げます。心理学者のアービング・ジャニスは、「高学歴のエリートが集まり、さわめて愚かな意思決定をした」と思える事例を研究しました。彼は、愚かな意思決定事例として「ピグス湾事件」、「ウォーターゲート事件」、「ベトナム戦争」を挙げ、「どんなに個人の知的水準が高くても、同質性の高い人が集まると、意思決定の品質は著しく低下してしまう」と指摘しています。

ここで求められるのが「悪魔の代弁者」です。悪魔の代弁者は、多数派の意見がまとまりつつあるときに、重箱の隅をつつくようにして難癖をつけます。この難癖によって、それまで見落とされていた視点に気付くことで、貧弱な意思決定に流れ込んでしまうことを防ぐわけです。

この「悪魔の代弁者」が、極めて重大な局面で有効に機能した例が「キューバ危機」です。

任期2年目のケネディ大統領は、1962年10月16日、弟であるロバート・ケネディ司法長官から「ソ連(現ロシア)がキューバに核ミサイル基地を建設中である」という報告を受けます。緊急招集された多数の米政府高官に対して、CIAから正式な事情説明が行われ、キューバのサンクリストバル近くの原野に核ミサイル基地が建設されつつあることが説明されます。「考えもしなかった」ということだったのでしょう。当時の会議の様子を回想する関係者は、「驚きのあまり、皆が茫然としていました」と述べています。「まさかソ連が、アメリカのひざ元であるキューバに核ミサイルを配備しようとは」ということです。

対応策を検討するため、ケネディ大統領は外交や軍事の専門家だけではなく、ボーカーの名手や、キューバの国情に詳しい商社マンなど、多様なバックグラウンドを持った人々を招集し、のちに「エクスコム」と呼ばれる会議体を形成します。この会議に参加したメンバーは、この後12日間の間、ほとんど眠ることなく、ぶっ続けで会議を行うことになります。事態は極めて深刻であり、かつ時間の猶予は限られています。アメリカとしてキューバに起きつつある事態を見過ごすことができないのは明白でしたが、どのような行動をとるべきなのかについては、**そう簡単に決定できるものではありません**。何といっても、キューバから核ミサイル攻撃を受ければ、ほぼ確実に当時のアメリカの人口1億9000万人のうち、8,000万人のアメリカ人を死に追いやることになります。歴史上、これほど掛け金の高いゲームはなかったのです。

この会議体の協議について、ケネディ大統領はいくつかのルールを設定しました。最初に設定したのが、**ケネディ大統領自身は会議に出席しない**、というものです。「安全保障について深い経験を持つ諸君の議論について、自分が影響を与えることのないよう、また、特別に自分に気を遣ってもらうことのないように、私は会議に出席しない」。これは極めて賢明な判断でした。次に大統領が指示したのは、「会議中は、通常の行政組織の序列や手続を忘れてほしい」ということでした。各自の管轄部門の代表者として会議に参加することを禁じ、その代わり、「**アメリカの国益を第一に考える、懐疑的なゼネラリスト**」になるように命じます。各自が専門分野のみに発言を限定してしまい、自分より高い専門知識を持つと思われる人に対する反論を控えるような官僚的態度で課題に取り組むことを戒め、アメリカの安全保障という、包括的な課題解決に取り組むように指示しました。

次に大統領は、最も親しい腹心である司法長官のロバート・ケネディと、大統領顧問のセオドア・ソレンセンの二人に「悪魔の代弁者」の役割を果たすよう、命じました。ケネディは彼ら二人に、会議に出された提案について、その弱点とリスクを洗い出し、それを自分と提案者に対して、徹底的に突きつけるよう求めたのです。最後に委員会に対して、「**提案を一つにまとめるのではなく、複数の提案を作成し、グループごとに提出するよう**」に求めました。これらのルールが、結果的にこの委員会の意思決定のクオリティを、これ以上ないほどに高める作用をもたらすことになります。

議論開始当初、ミサイルによる先制攻撃しかないのではないか、と思われた選択肢に、隔離あるいは海上封鎖のアイデアが加わったのは、議論開始一日目の夕方でした。翌17日には、マクナ马拉国防長官も海上封鎖支持に回り、メンバーは、先制攻撃派と海上封鎖派で真っ二つに分かれます。海上封鎖派の論拠は、「まず、最終的に何らかの武力的手段を講じなければならないとしても、最初から着手する必要はない。また、仮にミサイル基地を破壊したとしても軍事的には無意味で、結局はキューバの全軍事施設に対して攻撃を仕掛けるために侵攻作戦まで発展せざるを得ず、そうなるとう全面的な戦争状態が避けられない。もしキューバとソ連に対して武力衝突を回避できる望みがまだあるのであれば、先制攻撃を行うべきではない」というものです。

一方の先制攻撃派は、「すでにミサイルがキューバに運び込まれている以上、海上封鎖を行ってもミサイルの撤去が実現するとは思えないし、ミサイル基地の設置作業がストップすると考えるのも難しい。加えて、海上封鎖によってソ連の船を停船させることは、キューバと我々の問題という構図に、直接的にソ連との対決を持ち込むことになる。」というものです。

紙面の都合上その後の流れは省略しますが、ケネディの教養により、「悪魔の代弁者」の投入を決めていなければ、核戦争が起き、今日のような世界の繁栄は、なかったのかもしれない。

(令和6年度定時制課程前期終業集会 校長あいさつより抜粋)

私は高校卒業後は進学せず、自分で作品を作って稼いでいきたいと考えていました。そのことを中山先生に話したら、「コンクールに出典し、受賞したら実績になるし、このことをポートフォリオにまとめておくことで、他者から評価されたり、新しい視点が学べたりするから是非応募してみてください！」とお勧め、応援をいただき、応募を決意しました。こんなに応援してくれる人の期待を裏切るのは絶対にしたくないというプライドがあったので、何回も書き直し、友達や先生に意見を頂きながら完成させました。「見てくれる人が一番に目をむく」という軸を置いて、学校の休み時間やゲームをしていた時間を全てコンクールへ費やし、合計16枚ほどのアイデアを出しました。自分では良いと思って客観的な評価はイマイチだったり、なかなか良いアイデアが浮かばないことがあったなど、大変なこともありました。発想を変えるなど自分自身の気の持ち方を工夫することにより、完成させることができました。

コンクールという、自分を他者から評価してもらう機会があったからこそ、普段描かないようなものに挑戦する事や、自分の課題点を見つけること、自分の実力についてよく知ることが出来たと思います。そしてこれは自分の成長にも繋がり、自信もつき、コンクールにチャレンジして大正解だと思いました。

私が伝えたいことは、上手さや実力は関係なく、自分を主張する機会があれば、今の自分の最大限の実力、個性をその機会に詰め込んでみてほしいということです。今の自分の全力を詰め込んで成功すればその後の自信に繋がりますし、失敗したとしても、そこに全力を詰め込んだ分実力が積み重なる上に、うまくいかなかった原因を分析することにより今より成長できるきっかけを得ることができます。

まだ私は自分の実力に満足した事はありません。今回金賞を頂いた絵ですら書いた当初は今の自分の最大限の素晴らしいものだと思いましたが、今見るともっとこうすれば良かったなど改善点が山ほど出てきました。他者からの評価は、年齢が上がっていくほどどんどん厳しくなっていくものだと思います。厳しくなっていく評価に応えられる実力を身に着けるために、これからも日々精進を重ね、成長していきたいです！

パソコン甲子園 ポスタービジュアルコンテスト金賞 『自分の可能性の選択』



定時制課程 学校行事予定

11月 2日（土）東京都教育の日
 3日（日）文化の日
 4日（月）休日、定時制課程 学校説明会
 7日（木）自己探索学習⑥
 8日（金）遠足
 22日（金）自己探索学習⑦
 23日（土）勤労感謝の日

通信制課程 学校行事予定

11月 2日（土）後期スクーリングー 5
 3日（日）文化の日
 4日（月）休日
 8日（金）校外学習
 9日（土）後期スクーリングー 6
 16日（土）後期スクーリングー 7
 23日（土）勤労感謝の日